

第1回移住定住部会ワークショップでの意見

資料1

①

移住の関心を高めるための情報発信方法

No.	実施主体	実施内容	班
1	市民	大野の良い所をSNSで発信する	A
2	市民	日常生活や地元料理を発信する	A
3	市民	キャンペーンを実施する	A
4	市民	住民が「移住者を歓迎します」とアピールする	A
5	市民・企業	顔が見える情報を発信する	A
6	市民	「#まいおおの」に投稿する	B
7	企業	移住体験ツアーと企業訪問ツアーをセットで行う	A
8	企業・団体	移住促進チームを作る(例:大野で住もっさ)	A
9	企業・団体	体験ツアーを造成する	A
10	企業	従業員採用で「移住者枠」を設ける	A
11	企業	職業体験イベントを実施する	A
12	企業	企業で働く20～30代を情報発信する	A
13	団体・行政	ドラマ、アニメ、映画などのロケを誘致する	A
14	企業・行政	企業のPR動画を制作する	B
15	行政・団体	地区に特化した暮らし情報を発信する	B
16	行政	ふるさと納税の寄付者に観光案内や施設利用チケットを送付する	A
17	行政・団体	大野から活動できる場所までの時間を発信する	A
18	行政・団体	紙媒体からの情報発信から脱却して、マスメディア、SNSを活用する	A
19	行政・団体	魅力を差別化する	A
20	行政・団体	媒体を明確化する	A
21	行政・団体	大野が安全・安心に暮らせる町であることを根拠数値とともに発信する	A
22	行政・団体	心と身体の健康に良い町であることを発信する	A
23	行政・団体	文化資源を磨き上げて発信する	A
24	行政・団体	移住者希望者に合った町であるかどうかを検索(判定)できるようにする	A
25	行政・団体	若者から高齢者まで誰もが見てわかるポスターを道の駅、SA等に貼る	A
26	行政・団体	移住アンバサダーまたは移住大使を委嘱し、移住情報を発信してもらう	A
27	行政・団体	学校の特徴的な取り組みを発信する	B
28	行政・団体	星・水・人・川を発信する	B
29	行政・団体	インフルエンサーを活用して情報発信する	B
30	行政	市LINEやインスタで「大野へかえろう」サイトを発信する	B
31	行政	市サイトから働きやすい・子育てしやすい企業のHPに誘導する	B
32	行政	就職支援サイトに市助成金情報を掲載する	B
33	行政	農業課を新設する	B
34	行政	大野へかえろうサイトから#まいおおのが見れるようにする	B

(続き)

No.	実施主体	実施内容	班
35	行政・団体	シルバー世代移住希望者の生活様式に合った情報を発信する	B
36	行政・団体	悪い所(雪など)とそれでも大野に住む理由を発信する(例:池田町)	B
37	行政	スポーツチームを誘致する	B
38	行政・団体	子育て環境の良さ、生活にお金がかからないことを発信する	B
39	行政	市役所の窓口対応が親切なのでもっとPRする	B
40	行政	名水マラソンランネットとホームページを共有する	B
41	行政・団体	移住に特化したSNSで発信する	B
42	行政・団体	川遊び、雪遊びなど大野ならではの遊びを発信する	B
43	行政・団体	釣り好きをターゲットに川の魅力を発信する	B
44	行政・団体	生活像を持ってもらうため、移住者の声を細かい所まで拾って発信する	B
45	行政・団体	自然で遊ぶ親子の動画を掲載する	B
46	行政・団体	登山のまちとして大野をPRする	B
47	行政・団体	移住して起業した人や新規就農者のインタビュー動画を掲載する	B
48	行政・団体	移住者インタビュー動画を掲載する	B
49	行政・団体	半農半Xのリアル動画を発信する	B
50	行政・団体	地域や農村部で頑張っている若者を発信する	B
51	行政・団体	マイナス面も発信する	B
52	行政・団体	自然にやさしい暮らしPR隊をつくる	B
53	行政・団体	漫画やアニメで大野の良さを発信する	B

No.	実施主体	実施内容	班
1	市民	移住関心層と市民の交流の機会をつくる(ファンミーティングなど)	A
2	行政	帰省を促す	A
3	行政	大野の暮らしのスタイルの参考例を示す	A
4	市民	自治会の集会所を活用した民泊を行う	A
5	市民	体育大会などの地区行事に移住関心層も参加できるようにする	A
6	市民	移住関心層に地域行事に参加してもらう	B
7	行政・団体	農村部の祭りに参加できるチケットをつくる	A
8	行政・団体	農業・仕事・半農半Xの体験の提供	B
9	行政・団体	市民が移住者を呼ぶ仕掛けづくり	B
10	行政・団体	移住者が移住者を呼ぶ仕掛けづくり	B
11	行政・団体	市民との出会いを促す	A
12	市民	市民のなかで「移住者ウェルカム」な雰囲気をつくる	A
13	行政・団体	移住者が増えるメリットを広報して歓迎ムードをつくる	A
14	行政・団体	移住アンバサダーまたは移住大使を委嘱し、移住情報を発信してもらう(再掲)	A
15	企業	移住関心層と市内企業の交流を促す	A
16	行政・団体	おもてなしマイスター制度をつくる	A
17	行政・団体	市外の企業等に「ワーケーション体験メニュー」を提供する	A
18	行政・団体	市外の企業等に「心や身体の健康メニュー」を提供する	A
19	行政・団体・市民	安価で長期滞在できる宿泊施設(ゲストハウス、民宿)を整備又はPRする	B
20	企業	レンタカーの割引システムを導入する	B
21	行政・団体	スキー・スノボ客をターゲットに冬の長期滞在プランをつくる	B
22	行政・団体	ワークステイを盛り上げる	B
23	企業・団体・市民	複数回又は長期間宿泊したら特典を与える(銭湯の回数券など)	B
24	行政・団体	福祉の求人(介護福祉士、看護師)が多いことをPRする	B
25	行政・団体	フリーランスをターゲットにして移住支援を行う	B
26	行政・団体	シニア層をターゲットにした観光ツアーを行う	B
27	行政・団体	冬期間の体験イベントを行う	A
28	行政・団体	歴史、音楽など統一テーマごとに移住関心層にPRする	A
29	行政	市外チームを招いたスポーツ交流大会に補助する(市で実施中)	A
30	行政	ポイント付与や宿泊割引を行う	A
31	企業・市民	空き家を一時的に貸し出す(リロケーション)	A
32	行政・団体	季節ごとのアクティビティを用意してコンプリートしたくなる仕掛けをつくる	B
33	行政・団体	民泊施設をパッケージ化してPRする	B
34	企業	長期滞在をして病気治療や療養を行う湯治プランをつくる	B
35	行政・団体	大野ファン認定バッジをつくる	B
36	行政・団体	登山のまちとして大野をPRする(再掲)	B
37	行政・団体	88箇所めぐりのような名所めぐりを考える	B
38	行政・企業・団体	ワーケーションスペースを整備する	B
39	行政・企業・団体	道の駅利用者に対して市内事業所のクーポンやポイントカードを発行する	A
40	企業・行政	新卒者やUターン者の就職に対して入社祝い金を支給する	B